

第 1 回開設準備検討会における主な意見

1 議題 「県立高校再編の実施計画における新高校の開設準備について」

2 主な意見

(1) 高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動等に関すること

- ① 前期再編を踏まえ、新高校では、学習活動、学校行事、部活動等について、統合する両校の歴史や良い点をできるだけ活かした形で継承していくことが重要だと思う。
- ② 魅力ある学校づくりを進める中で課題が出てきたとき、新高校をスタートさせるというプラスの発想で、創造的な心構えで解決にあたってほしい。
- ③ 新高校の生徒が、「自分たちが新しい学校を作っていく」という自覚を持たせるような教育を行ってほしい。
- ④ 新高校の学習や部活動の環境向上のための施設設備を充実してほしい。
- ⑤ 泊、水橋、高岡西、南砺福光の今年度の入学生には、気持ちよく学習し、部活動に励み、母校に誇りと自信を持って卒業できるよう、教育環境の充実に取り組んでもらいたい。
- ⑥ 部活動については、年次進行で生徒数が減っても、活動の機会が保証されるよう、最後まで全力で支える体制を整えてもらいたい。
- ⑦ 移行期には様々な問題が起こるだろうが、生徒中心という視点に立ち、良い方向に収束させていかねばならない。
- ⑧ 中学生や保護者が志望校を決めるときに十分な検討材料となるよう、ホームページやパンフレット等で新高校の情報をしっかりと提供してほしい。

(2) 新高校の名称、校歌、校章等に関すること

- ① 新たに「基本的な考え方」を出す場合、ゼロから検討するのではなく、前期再編で示された「基本的な考え方」を踏まえ、議論を重ねていくべきである。
- ② 現在の校名は、市町名が付いている高校がほとんどであり、学校が所在する地域や学校の特徴が分かる校名であれば、中学生やその保護者にとって、非常に理解しやすいと思う。
- ③ 校名については、富山県内のどこにある高校なのかが分かることは、ふるさと愛を育むという点からもとても大切である。
- ④ 中学校から高校へ行くときは、中学生にとって県下全域に選択肢が広がる時期である。中学生にとっては、学校所在地の地域が分かる校名がよい。
- ⑤ 校名については、地域名が出てくるのが高校くらいかと思う。「自分はこの学校で頑張った」という思いに繋がるような、分かりやすい校名がよい。
- ⑥ 校名、校歌、校章については、歴史やイメージに配慮してほしい。
- ⑦ 校名の検討にあたって、卒業生や地域の方々の中で対立や混乱が起きると、それを見聞きする子どもたちに良い影響を与えない。関係の方々には、そうした事態にならないよう、十分に配慮しながら検討を進めてほしい。
- ⑧ 校名の問題は、どう決まったにせよ、賛否両論が出るものなので、多数決論理ではなく、県が主体的に責任を持って決定していくべきである。
- ⑨ 校歌は完成形を与えるのではなく、生徒の意見を取り入れながら、「自分たちが作ってきた」という自負を持てるようなものにすればよいと思う。
- ⑩ 校歌を新しくする場合、作詞、作曲などに時間がかかるので、来年4月の新高校開校には間に合うのか。
- ⑪ 制服については、何も変わらないのではなく、例えばネクタイをつけるなど、現在のものをマイナーチェンジしながら、新しいものを生徒たちが考えていくのもよいと思う。
- ⑫ 前期再編も踏まえながら、対象校の同窓会、学校関係者のご意見をいただいて検討を進めるのがよい。

(3) その他

- ① 前期再編の評価について、校長先生や保護者の代表的な意見を資料として提示してほしい。
- ② 前期再編で、生徒の通学負担の変化が分かる資料を提示してほしい。
- ③ 前期再編後に同窓会がどうなったかが分かる資料を提示してほしい。

(4) 会長まとめから

- ① 前期再編の問題点などが検証され、特に問題がないのであれば、前期再編の方向を大きな方針としていけばよいと感じる。
- ② 特に、校名については、高校は所在する地域が分かることが重要という意見が複数の委員から出されたが、前期再編の実績もあるので、そのときの議論も踏まえながら検討していきたい。
- ③ 全く新しい校名では、アイデンティティーが失われてしまう。ゼロスタートでやってよい事柄とそうでないものがあると思う。
- ④ 校歌、校章などの具体的なことについては、さらに議論が必要である。折角の今あるブランドを捨てるのは非常にもったいないし、そのブランドの継承はどうあるべきかを考えることが必要になる。新しい学校を作るから、全てリセットでよいわけではないと思う。
- ⑤ 新高校は来年4月に開校なので、9月の県議会で関係条例の改正が必要になる。この開設準備検討会では、8月中には基本的な考え方を取りまとめたい。